

平成20年度 岐阜県高等学校新人バスケットボール大会
兼 東海高等学校新人バスケットボール大会県予選会
最終日:平成21年2月8日(日)
会場:関わかくさプラザ

男子の部

< 審判 >

5位決定戦 岐阜農林 73 $\begin{bmatrix} 21 - 23 \\ 15 - 9 \\ 21 - 17 \\ 16 - 19 \end{bmatrix}$ 68 長良 角平和優・宮崎泰彦

決勝リーグ 中津川工 86 $\begin{bmatrix} 21 - 12 \\ 17 - 22 \\ 30 - 16 \\ 18 - 25 \end{bmatrix}$ 75 富田 室谷伸治・長屋 貴
(2勝) (2敗)

中津川工は 田口、谷本の3点シュートなどで先行し、対する富田は 松波、佐田が速いリズムでシュートを打って得点を重ねる。第1ピリオドは中津川工が9点をリードして終わる。

第2ピリオドも、富田は速いリズムから 松波の3点シュート、佐田の速攻が決まり、追い上げを見せる。対する中津川工は、田口が厳しいチェックを受けたが、落ち着いたプレーでファウルをもらって、フリースローも確実に決めた。前半を終わって38-34と、中津川工のリードは4点となった。

第3ピリオド、富田は合わせのプレーを多用して激しく追い上げ、1点差まで詰め寄る。しかし中津川工はディフェンスのプレッシャーを強めて、相手のアウトサイドシュートを防ぎ、田口、曽我の3点シュート、森(俊)のアウトサイドシュートなどで一気に点差を広げ、18点差をつけて最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、富田は速いテンポでシュートを放ち、羽田、松波、佐田の活躍で5点差まで詰め寄った。しかし中津川工は、田口が時間を使いながら落ち着いてゲームをコントロールして、フリーになった 森(晃)、縺纏にパスを出してシュートを打たせた。結局、リードを守った中津川工が、86-75で勝利を収めた。(井口貢志)

決勝リーグ 美濃加茂 99 $\begin{bmatrix} 26 - 11 \\ 39 - 8 \\ 16 - 8 \\ 18 - 20 \end{bmatrix}$ 47 岐阜総合 棚橋英一・菅野 浩
(2勝) (2敗)

美濃加茂、オールコート1-2-1-1ゾーンプレス、岐阜総合、ハーフコート2-3ゾーンでスタート。美濃加茂は相手のゾーンディフェンスを巧みに攻め、打江、小川の3点シュート、高橋、

国本のインサイドシュートで次々に得点をあげる。岐阜総合は 松井を中心に懸命に攻めるが、シュートが単発的で得点が伸びない。第1ピリオドは美濃加茂が26-11とリードを奪う。

第2ピリオドに入っても美濃加茂はディフェンスを緩めず、ボールを奪うと、中村、打江、安藤らがシュートを決め、一気に30点差をつけてゲームを決定づける。岐阜総合は 松井が3点シュート、浅生がシュートを決めるが、打開策を見出せず点差は開く一方となる。美濃加茂は、前半で65-19と大勢を決した。

後半に入っても、美濃加茂は安定したシュート力とタイトなディフェンスでゲームを支配し、得点差を守って99-47で勝ち、決勝リーグ2勝目をあげた。岐阜総合はディフェンスをハーフコートマンツーマン、1-3-1ゾーンなど切り替え、メンバーを交代させながら流れを変えようとするが、攻め手を見出せないまま敗れた。(矢追雄一)

決勝 リーグ	美濃加茂 (3勝)	88	$\begin{bmatrix} 23 - 23 \\ 28 - 16 \\ 21 - 22 \\ 16 - 23 \end{bmatrix}$	84	中津川工 (2勝1敗)	増田博徳・清水 潤

決勝リーグ2勝同士の対決となった最終戦、美濃加茂はオールコートマンツーマン、中津川工はハーフコートマンツーマンでスタートする。美濃加茂は、中村、小川が3点シュートを4連続で決める。対する中津川工は、ディフェンスからリズムをつかみ、田口のドライブ、加藤のインサイドプレーで応戦する。両チームともディフェンスリバウンドに積極的に飛び込み、一進一退の攻防を繰り返す。

第2ピリオド、美濃加茂は打江を中心とした速いパス回しとカットプレーからリズムをつかむ。中村の外角シュート、水野のリバウンドシュートで次々と加点する。中津川工も粘り強いディフェンスから、トランジションプレーで谷本、田口がシュートを決める。前半は51-39と美濃加茂がリードする。

第3ピリオド、12点差を追う中津川工は、2-2-1ゾーンプレスで相手のミス誘い、谷本のドライブ、3点シュートで得点する。美濃加茂も落ち着いたボール運びとパス回しから、小川、安藤が3点シュートを次々と決める。72-61と美濃加茂のリードで最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、中津川工は田口の連続3点シュート、バスケットカウントで一気に4点差まで詰め寄る。しかし、美濃加茂は小川の3点シュートなどが効果的に決まり、相手の反撃を許さない。中津川工は田口、谷本、曾我の3点シュートで最後まで必死に追いつくが、追いつくことはできなかった。美濃加茂は苦しい展開になりながらも最後まで攻めきって、リーグ戦3戦全勝で、3年ぶり3回目の県新人大会優勝を勝ち取った。(林 義貴)

決勝 リーグ	岐阜総合 (1勝2敗)	82	$\begin{bmatrix} 20 - 17 \\ 16 - 15 \\ 22 - 14 \\ 24 - 26 \end{bmatrix}$	72	富田 (3敗)	相宮俊郎・山田祐治

岐阜総合は2-3ゾーン、富田はハーフコートマンツーマンでスタートする。岐阜総合は松井の3点シュート、ドライブイン、小西のミドルシュートなどで得点をあげれば、富田は羽田のミドルシュート、佐田の3点シュート、真里谷のミドルシュートなどで追い上げ、第1ピリオドは岐阜総合が20-17と3点リードする。

第2ピリオド、岐阜総合はハーフコートマンツーマンに切り替え、浅野のドライブ、後藤のミドルシュートなどで得点する。富田は松波がゲームをコントロールし、佐田、真里谷がシュートを決める。前半はほぼ互角の戦いで、岐阜総合が36-32と4点リードで折り返す。

第3ピリオド、岐阜総合は小西、松井の落ち着いたリードから、浅野、野原らが確実にシュートを決め、58-46とリードを広げる。

第4ピリオドに入っても、岐阜総合は小西がゲームコントロールから自らもドライブインを決め、浅野、坂井もインサイドで確実にシュートを決め、主導権を譲らなかった。最後は82-72とリードを守りきって勝利し、第3位で東海大会出場を決めた。富田も松波、羽田、佐田が懸命に走って3点シュートを決め、必死の追い上げを見せたが、逆転には至らなかった。(鈴木雅雄)

女子の部

<審判>

5位決定戦	土岐商	65	$\begin{bmatrix} 7 - 16 \\ 17 - 15 \\ 22 - 15 \\ 19 - 10 \end{bmatrix}$	56	長良	早野宏樹・名越龍男
-------	-----	----	---	----	----	-----------

決勝リーグ	岐阜女子	96	$\begin{bmatrix} 24 - 7 \\ 19 - 12 \\ 28 - 17 \\ 25 - 7 \end{bmatrix}$	43	県岐阜商	小森邦弘・廣瀬卓哉
	(2勝)				(2敗)	

両チームともにマンツーマンディフェンスでスタートする。岐阜女子は 中村の3点シュート、安江のポストプレーを中心に得点を重ねる。県岐阜商も 安田の3点シュートで反撃するが、24-7と岐阜女子が大きくリードして第1ピリオドを終える。

第2ピリオド、岐阜女子は激しいディフェンスから速攻で着実に得点を伸ばしていく。県岐阜商も 小倉、松尾の3点シュート、山田のバスケットカウントで追いつくが、さらに差は広がって、43-19で前半を折り返した。

後半に入っても岐阜女子の勢いは衰えず、中村、尾崎、安江、佐々木らの活躍でさらにリードを広げていく。結局、ベンチメンバー全員を出場させた岐阜女子が、96-43の大差で勝利して、決勝リーグの2勝目をあげた。県岐阜商は 馬場、河合の活躍で食い下がったが、及ばなかった。(杉山博宣)

決勝リーグ	高山西	65	$\begin{bmatrix} 15 - 16 \\ 19 - 10 \\ 15 - 8 \\ 16 - 18 \end{bmatrix}$	52	岐阜総合	小牧秀則・田中昭博
	(2勝)				(2敗)	

両チームともハーフマンツーマンでスタート。高山西は 浅生を起点として早いパス回しから垣内、片山がシュートを決めれば、岐阜総合は 野倉のインサイドを軸に、田中の3本の3点シュートでリズムを作り、第1ピリオドは岐阜総合が16-15と1点をリードする。

第2ピリオド、高山西はドライブからパスをつなぎ、垣内のジャンプシュート、原、片山の3点シュート、浅生のジャンプシュートと多彩な攻めを見せ、一気にリードを奪う。岐阜総合は途中ノーゴールの時間が続いたが、野倉、野原(あ)がインサイドで粘り、必死に食い下がる。前半は高山西が34-26とリードして折り返す。

後半に入ると、高山西は相手のオールコートディフェンスを広い視野で難なく攻め、オフェンスリバウンドに積極的に飛び込んで、片山、井川らのシュートで順調に得点を伸ばす。岐阜総合はオールコートディフェンスでプレッシャーをかけ粘りを見せるが、肝心のシュートが決まらない。

第4ピリオドに入っても、高山西は相手のミスから速攻を出し、インサイド、アウトサイドを巧みに使い、リードを守りきって65-52で勝ち、決勝リーグ2勝目をあげた。岐阜総合も 下里のドライブ、野倉のリバウンドシュート、野原(あ)の3点シュートで追い上げを図るも、ミスが多く攻めきれなかった。(林香奈江)

決勝 リーグ	岐阜女子 (3勝)	85	$\begin{bmatrix} 28 - 9 \\ 14 - 14 \\ 13 - 15 \\ 30 - 11 \end{bmatrix}$	49	高山西 (2勝1敗)	棚橋英一・赤石恵美子

両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。お互いにリズムをつかむことができず、約3分間ノーゴール。先制したのは岐阜女子。中村の連続ゴール、神山のリバウンドシュートなどでリードを奪い、11-0とする。岐阜女子は激しいディフェンスで相手の攻めをはねのけて、コンスタントに得点していく。高山西は井川を中心に攻撃したが、28-9と岐阜女子が大きくリードした。

第2ピリオド、岐阜女子は尾崎、神山のシュート、高山西は垣内、伏谷、片山のシュートで点を取り合う。両チームともターンオーバーが目立ち流れをつかめないが、硬さのとれた高山西が垣内、原の活躍で互角の展開に持ち込む。前半は岐阜女子が42-23とリードした。

第3ピリオド、先に流れをつかんだのは高山西。井川の1on1、片山の3点シュートで追い上げる。岐阜女子はディフェンスのプレッシャーを強めて、中村のシュートで得点していくが、ターンオーバーが目立って波に乗れない。高山西は浅生の1on1など積極的な攻撃を仕掛けた。55-38と岐阜女子が17点をリードして、最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、リズムをつかんだ岐阜女子は神山、中村のミドルシュート、安江のインサイドプレーで得点してリードを広げる。疲れが見え始めて脚の止まった高山西に対し、岐阜女子はコンスタントに得点を重ねた。結局、パワー、パスワークに勝る岐阜女子が85-49で勝ち、決勝リーグ3勝で県新人大会優勝を決めた。中盤に粘りを見せた高山西であったが、第1ピリオドの失点が大きく響いた。(下畑耕一)

決勝 リーグ	岐阜総合 (1勝2敗)	64	$\begin{bmatrix} 14 - 17 \\ 22 - 6 \\ 13 - 11 \\ 15 - 18 \end{bmatrix}$	52	県岐阜商 (3敗)	小泉純子・岩永英夫

岐阜総合1-3-1ゾーン、県岐阜商ハーフコートマンツーマンでスタート。序盤両チームとも相手のディフェンスを攻めあぐみ、なかなか得点できない。岐阜総合は野倉のポストプレー、下里の3点シュート、ドライブで得点。県岐阜商は馬場、松尾の3点シュート、山田のミドルシュートで得点。互角の戦いで、県岐阜商が17-14と3点をリードする。

第2ピリオド、岐阜総合はディフェンスをマンツーマンに変えるとこれが功を奏し、相手を7分間ノーゴールに封じ、野原(あ)、尾関、猪野間の3点シュートや野倉のリバウンドシュートで一気に逆転し、前半を岐阜総合が36-23とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、岐阜総合は野倉のポストプレー、内田の3点シュートでリードを保つ。県岐阜商もディフェンスをオールコートマンツーマンに変え流れを取り戻し、松尾、山田がミドルシュートを決めるが、点差を縮めるには至らない。

第4ピリオド、岐阜総合は野倉がオフェンス、ディフェンスともリバウンドを支配し、ゴール下のシュートを次々に決めて相手の反撃を許さない。最後は尾関がゲームをコントロールしてリードを守り、64-52で勝利して、第3位となり、東海大会出場権を獲得した。県岐阜商も安田、山田の3点シュート、吉野のミドルシュートで必死の追い上げを図るが、それまでの失点が大きすぎた。(市川 学)